

通信・IT ネットワークの分野では、日々新しい技術が開発され、より効率的で、より安価なサービスが次々と生み出されています。知らないことは、イコール企業利益の損失です。そこで私たち大和電設工業は、情報通信やITソリューションの『知って得する最新情報』を、お世話になっている皆様に定期的にお伝えしていきます。隔月発刊のDDK通信、ぜひお楽しみください。

アルコール検知器の準備はお済ですか？

これまでバスやタクシーなどの「緑ナンバー」の車にはアルコールチェックが義務付けられていましたが、2022年の法改正により、「白ナンバー」の自動車を一定台数保有する企業や団体にもアルコールチェック義務化の対象が拡大されました。

既に2022年4月からは目視によるアルコールチェックが開始されていますが、10月からは「アルコール検知器」によるチェックが義務化されます。今回は、アルコール検知器を選ぶ際のポイントを見ていきたいと思います。

アルコール検知器を選ぶ5つのポイント

アルコール検知器を導入するにあたって商品選びをする必要がありますが、アルコール検知器には色々なタイプや方式があります。使用場所や用途により最適なものが変わってきます

す。また、アルコール測定結果は1年保管しなければなりませんのでどういった記録方法をとるのか、アルコール検知器のメンテナンスはどうするのか等々を見て選択しないといけません。

Point 1 設置方法

- 据置型
- 携帯型

事業所でのアルコールチェックが可能な場合は据置型、直行直帰や出張が多い場合は携帯型を選ぶなど、その頻度により選択しましょう。

Point 2 センサータイプ

- 燃料電池式センサー
 - ・高精度なセンサー
 - ・高価格
- 半導体式ガスセンサー
 - ・安価で導入しやすい
 - ・アルコール以外でも匂いの強いものに反応することがある

Point 3 測定方法

- ストロー式
- マウスピース式
- 吹きかけ式

おすすめはストロー式かマウスピース式のもので、吹きかけ式は周囲の空気も取り込んで計測される為、測定する場所の周りの影響を受けやすい方式になります。

Point 4 記録機能

- 検知器本体に記録
- PCやクラウドに記録
- 専用ソフトに記録
- 結果をプリントアウト
- 記録機能無し(手書きで管理)

虚偽の申告を防ぐ為にも機械的に記録・管理できる商品を導入した方が良いと言えますが、その分、アルコール検知器1台の値段が高くなることや、クラウドや専用ソフトを使用する場合には使用料などの費用がかかってきます。

Point 5 内臓センサーについての確認

- 1 使用回数(使用期間)
- 2 メンテナンスの方法
- 3 交換タイミングで通知の有無

アルコール検知器の内臓センサーは、使用していくうちに徐々に劣化していくため、使用回数や期間には上限があります。使用回数や期間は、商品により大きく変わってきますので、商品選択の際には注意が必要です。メンテナンスの方法についても、「センサーのみの交換」「本体買い替え」など商品により異なります。交換のタイミングで通知がくるものは大丈夫ですが、通知がこないもの場合は何回使ったのか、いつから使用しているのか等を把握しておく必要があります。

今、インターネットでアルコール検知器と検索をかけると様々なアルコール検知器が表示されます。どれを選んだらよいか迷われる場合は、J-BACが認証した機器から選択する方法もあります。

J-BACとはアルコール検知器協議会のことで、アルコール検知器の技術や品質向上、アルコール検知器の普及啓発を行っている協議会です。J-BACのホームページには、J-BACが認定した28機種のアルコール検知器が掲載されています。1台1台に簡易な説明文がついていますので、そちらである程度絞り込みをしてから詳しく機器を見ていかれてはいかがでしょうか。

